

県内206人 喜びの春

昨年過半数 ↓ 今年再編後で割合最低

福大の前期合格発表

福島大は6日、前期日程入試の合格者572人を発表。合格者のうち県内合格者は206人(前年比96人減)で合格者総数に占める割合は36%だった。2005(平成17)年の全学再編以降、合格者総数に占める割合は過去最低となった。昨年より県内合格者は345人多い1170人で、約42%増加したことなどが

主な要因とみられる。県別の合格者では山形が75人で本県に次いで2番目に多く、宮城68人、栃木46人、新潟32人と続いた。

入試を担当する工藤孝幾副学長は「今年もあらゆる手段で志願者の増加に努力した」と話すように、同大は原発事故後の志願者獲得に向け、さまざまな新事業を展開した。在学生が出身高校の恩師らに同大の現状を伝えるメッセージ事業のほか、職員が県外の高校を積極的に訪問、教職員が県外高校で模擬授業を行

った。

工藤副学長は「入試の広報活動が全てではないが、事業が奏功し、この結果になったのではないかと。県外高校生が本県を避ける傾向があった昨年より、福島大への注目度が上がったと考える」と分析した。

橋が2年連続で最多

福島民友新聞社の6日午後6時現在の調べでは、県

双子の陰山さん仲良く合格

郡山市の尚志高普通科特別進学コース3年で双子の

陰山みゆきさん(18)、龍之助さん(18)は、2人そろって福島大人間発達文化学類に合格を果たした。2人は「大学卒業後は県内で就職して復興のために働きたい」と復興の担い手の自覚を持ち、合格を喜んでいる。東日本震災をきっかけに本県への思いを強くし、同大進学を目指した。姉のみゆきさんは母親と同じ保育士、弟の龍之助さんは中

内の主な高校の福島大合格者(推薦除く、既卒含む)は、22人の橋が2年連続最多。次いで福島東19人、安積黎明、会津各17人、須賀川桐陽16人、郡山12人、郡山東、いわき秀英が各10人で2桁台。福島、葵、磐城桜が丘が各9人、福島成蹊8人、尚志6人、福島西、安積、喜多方は各5人。白河旭、磐城、日大東北が各4人、白河、いわき光洋は各3人、帝京安積2人、福島南、会津学鳳、湯本、桜の聖母学院、学法福島が各1人など。

学校の国語教諭を志す。

2月の推薦入試で一足先に合格を決めていたみゆきさんは、龍之助さんの合格の知らせを受けて「おめでとう」と祝福。龍之助さんは「姉が先に合格して重圧はあったが、2人で合格できて安心した」と笑みを浮かべた。2人は「ボランティアなどいろいろな事に挑戦して知識を広げたい」と憧れのキャンパスライフに期待を膨らませる。



先輩から祝福の胴上げを受ける笑顔の合格者。6日午前11時すぎ、福島大